



う え だ て ん ま ん ぐ う 植田天満宮

祭神 天満天神 (菅原道真公)
祭日 5月5日

たいしょう 大正5 (1916) 年11月3日、ひろひとしんのう 裕仁親王 (昭和天皇) りったいしほうしゅくぎょうじ の立太子奉祝行事の一環として植田地区住民が勧請しました。その後、平成16 (2004) 年9月の台風18号により倒壊してしまい、平成17 (2005) 年6月5日に再建しました。

当時、坂八幡宮の宮司は、広島市山根町の尾長天満宮の渡辺宮司が兼務していたので渡辺宮司に依頼して、尾長天満宮の分霊を祀ったものです。

祭神は、菅原道真で、御神体の神像は、高さ13cmの木彫の立像であって、林正市氏の作と伝えられています。

菅原道真は、平安時代に右大臣・文章博士として活躍しましたが、太宰権帥に

きせん 左遷され、死後は、天満天神として祭られて、学問の神として異例の尊崇を受けました。

天満宮は、古来、民衆信仰の最も厚い神社の一つで、京都の北野、太宰府、防府の日本三大天神をはじめ、全国に一万数千社を数えます。とくに瀬戸内沿岸は道真の左遷航路にあたるので、途中立ち寄ったという伝説にちなんで比較的多く存在します。

